

ホームシアター システム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全の
ために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管して
ください。



HT-K25

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主にリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。

本機はドルビー*デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック(II)アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC(LC)デコーダー、DTS**デコーダーを搭載しています。

*ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

以下が米国AACパテントナンバーです。

Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5 400 433; 5,222,189; 5,357,594; 5 752 225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5 297 236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

**Digital theater Systems,Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital theater Systems,Incの商標です。

目次

接続と準備

準備1：箱から出したら	4
準備2：コントロールセンターとサブウー ファアを接続する	5
準備3：デジタル音声出力端子のある機器を 接続する	6
準備4：ビデオ機器を接続する	8
準備5：スピーカーを設置する	9
準備6：スピーカーを接続する	10
準備7：端子カバーとスタンドを 取り付ける	11
準備8：電源コードを接続する	13
設定/接続を確認する	14
DVDプレーヤー（別売り）で DVDを再生する	15

つないだ機器の音を聞く

入力（ファンクション）を切り換える	15
表示窓に点灯する項目について	16

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ	18
ドルビープロロジック（II）を楽しむ	20

その他の操作/設定

バイリンガル（二重音声）の再生モードを 選ぶ	20
スリープタイマーを使う	20
本機付属のリモコンで 他の機器を操作する	21
リモコンのファンクションボタンの 設定を変える	24
スピーカー設定をする	24
サウンドフィールドの効果を調節する	26

その他

使用上のご注意	28
故障かな？と思ったら	29
保証書とアフターサービス	30
主な仕様	31
用語解説	32
各部の名前と参照ページ	34
索引	裏表紙

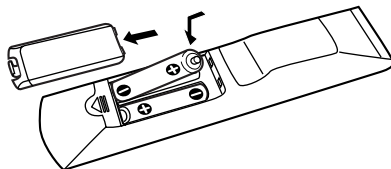
準備1：箱から出した ら

次の同梱物がそろっているかを確認してください。そろっていない場合は、お買い上げ店またはソニーサービス窓口へご連絡ください。

- コントロールセンター(1)
- サブウーファー(1)
- マイクロサテライトスピーカー(5)
- 端子カバー(1)
- ネジ(端子カバー用)(2)
- コントロールセンタースタンド(1)
- ネジ(コントロールセンタースタンド用)(1)
- リモコンRM-U25(1)
- ソニー製単3型乾電池(NS)(2)
- スピーカーコード(長)(2)
- スピーカーコード(短)(3)
- システムコード(1)
- 光デジタルコード(1)
- スピーカーパッド(20)
- スピーカー用シール(1)
- 六角レンチ(1)
- 滑り止めシート(4)
- 取扱説明書(1)
- スピーカー設置ガイド(1)
- スタンドのご案内(1)
- ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内(1)
- 保証書(1)

リモコンに電池を入れる

+ とーの向きを合わせて、単3形乾電池(付属)2個を入れます。



ちょっと一言

乾電池の寿命は約6か月です。残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、2個とも新しい乾電池に交換してください。

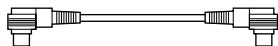
ご注意

- 高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、コントロールセンターのリモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。液漏れや破損のおそれがあります。
- 機器の接続をする前に、必ずすべての機器の電源をお切りください。
- ノイズ発生の原因となりますので、接続はしっかりと行ってください。

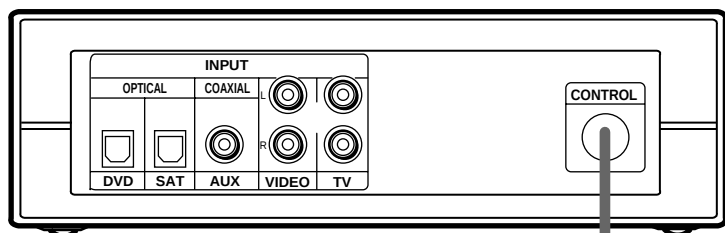
準備2：コントロールセンターとサブウーファースを接続する

必要な接続コード

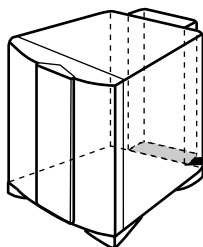
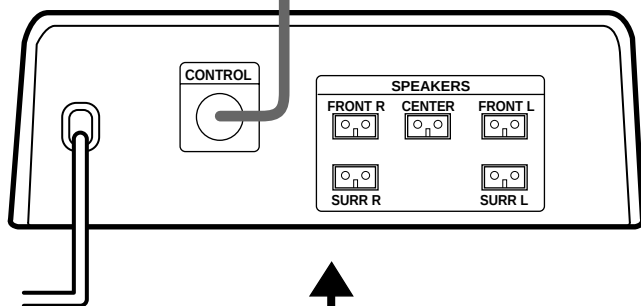
システムコード（付属）



コントロールセンター



サブウーファー



ご注意

システムコードをつないだり、外したりするときは、必ず電源コードをコンセントから抜いてください。電源を入れたままシステムコードを抜くと、設定した内容が変わることがあります。

準備3：デジタル音声出力端子のある機器を接続する

お手持ちのDVDプレーヤーやその他の機器（“プレイステーション 2”やCDプレーヤー、MDデッキ、デジタル衛星放送チューナーなど）にデジタル音声出力端子がある場合は、コントロールセンターのデジタル音声入力端子に接続して、映画館のようなマルチチャンネルサラウンド音声をお楽しみいただけます。

DVDプレーヤーや“プレイステーション 2”の映像出力端子は、テレビの映像入力端子に接続します。

ご注意

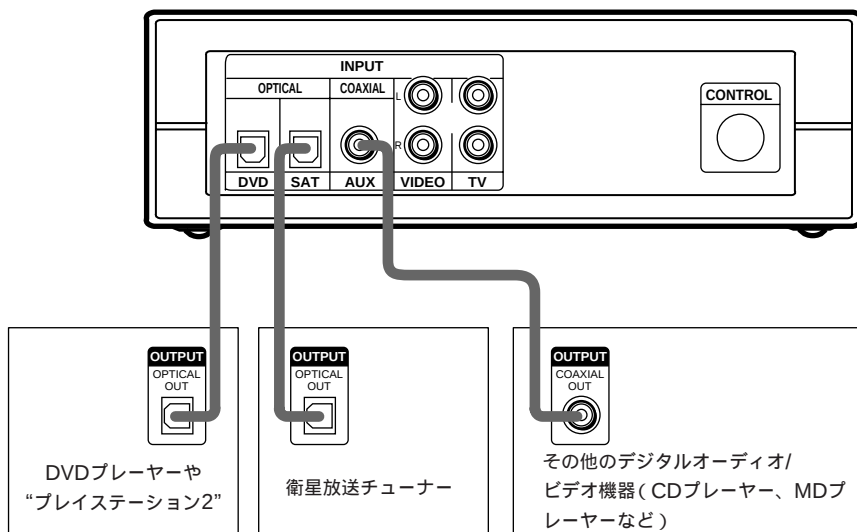
本機にビデオ信号を入力することはできません。ビデオ機器（ビデオデッキやテレビなど）を接続するときにはビデオ機器の映像出力端子をテレビの映像入力端子に接続してください。

必要な接続コード

光デジタルコード（付属）



同軸デジタルコード（別売り）



ちょっと一言

本機のOPTICAL端子/COAXIAL端子は、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHzのサンプリング周波数に対応しています。

ソニー製DVDプレーヤーまたは“プレイステーション 2”を使うには

前ページのようにDVDプレーヤーまたは“プレイステーション 2”を接続したときは、各機器側で次の設定を行ってください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

<DVDプレーヤー>

- 1 設定画面で「オーディオ設定」を選択する。
- 2 「オーディオDRC」を「ワイドレンジ」にする。
- 3 「音声デジタル出力」を「入」にする。
- 4 「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」にする。
- 5 「DTS」を「入」にする。

<“プレイステーション 2”>

- 1 設定画面で「オーディオ設定」を選択する。
- 2 「音声デジタル出力」を選択する。
- 3 「光デジタル出力」を「入」にする。
- 4 「ドルビーデジタル」を「入」にする。
- 5 「DTS」を「入」にする。

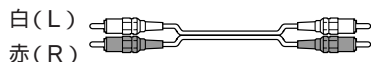
“プレイステーション 2”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

準備4：ビデオ機器を接続する

必要な接続コード

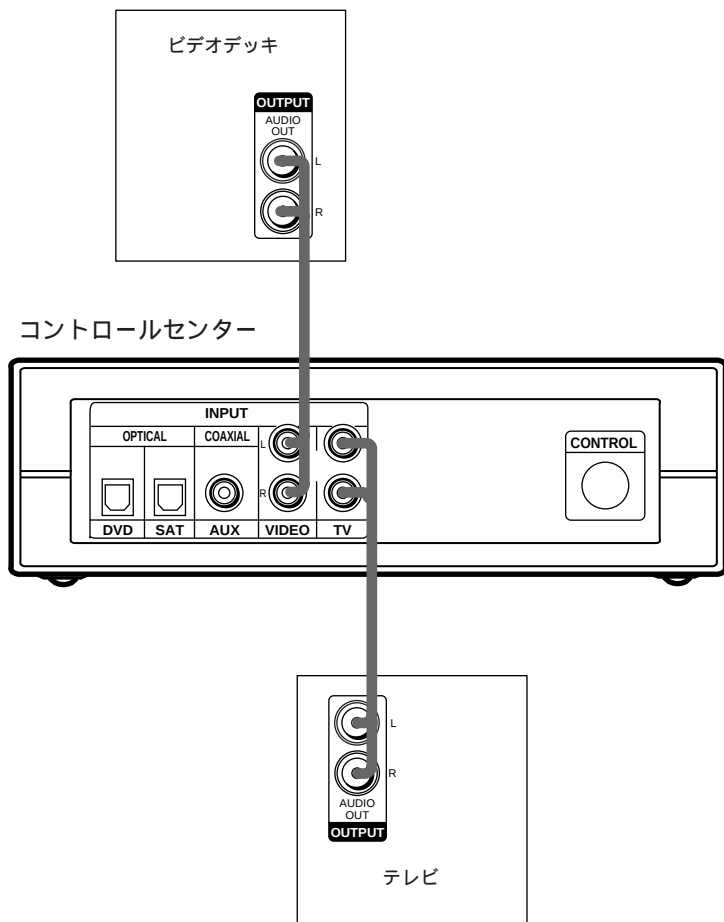
音声コード（別売り）

白（L）端子には白プラグを、赤（R）端子には赤プラグをつなぎます。つなぐときはプラグを端子にしっかり差し込んでください。しっかり差し込まないと雑音の原因になります。



ご注意

本機にビデオ信号を入力することはできません。ビデオ機器（ビデオデッキやテレビなど）を接続するときにはビデオ機器の映像出力端子をテレビの映像入力端子に接続してください。

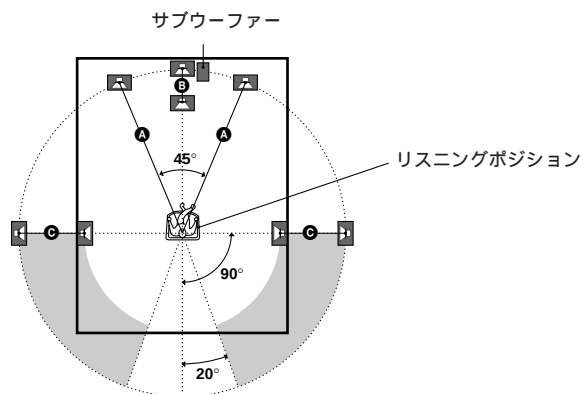


準備5：スピーカーを設置する

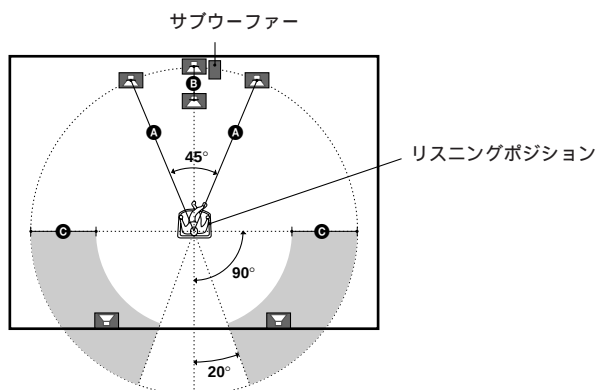
サラウンド効果を十分に楽しむためには、各スピーカーを下図のように設置してください。

- フロントスピーカーはリスニングポジションから1～10 mのところに設置してください (A)。
- センタースピーカーまでの距離は、フロントスピーカーと同じ距離 (A) からリスニングポジションに1.5 m近づける範囲が (B) より良好なサラウンド効果を得られる距離です。
- サラウンドスピーカーまでの距離は、フロントスピーカーと同じ距離 (A) からリスニングポジションに4.5 m近づける範囲が (C) より良好なサラウンド効果を得られる距離です。
- サブウーファーは、リスニングポジションからフロントスピーカーまでと等距離の床の上 (右または左) に置いてください。

サラウンドスピーカーを横に設置した場合



サラウンドスピーカーを背後に設置した場合



ご注意

センタースピーカーとサラウンドスピーカーは、フロントスピーカーよりも離れた位置に置かないでください。

準備6：スピーカーを接続する

必ず、スピーカーを設置してから接続してください。

サブウーファー側

サブウーファーの底にあるSPEAKERS端子の色に合わせて、スピーカーコードを接続します。

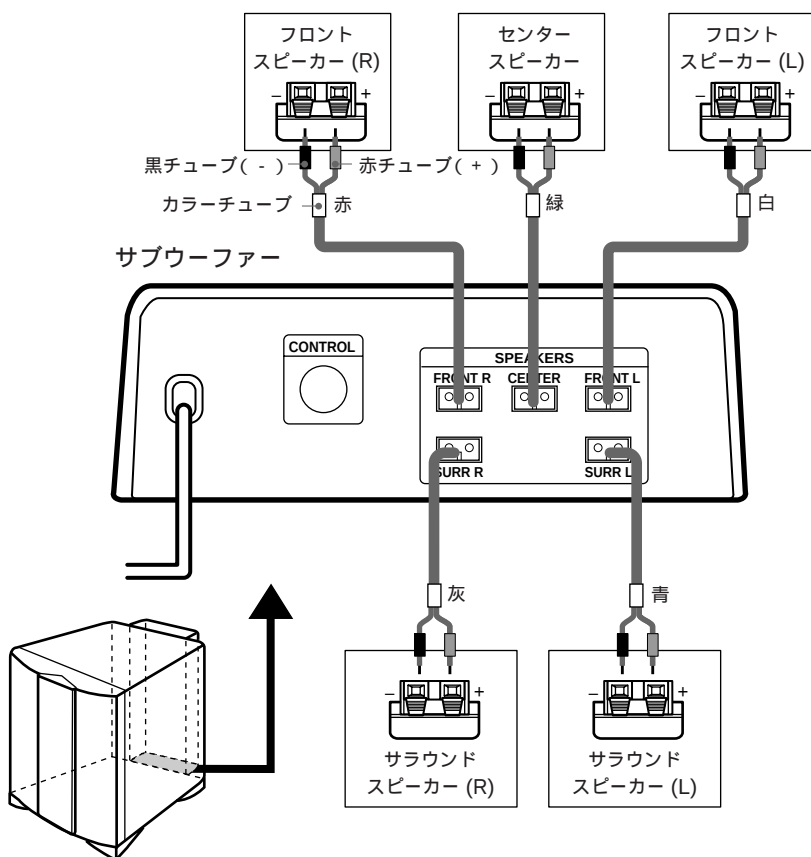
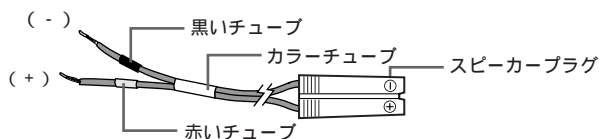
スピーカー側

付属のスピーカー用シール(5色、「FRONT L」など)をスピーカーの後面に貼り、同じ色のカラーチューブの付いたスピーカーコードを接続します。

必要な接続コード

スピーカーコード(付属)

黒いチューブがついているコードが(-)側です。

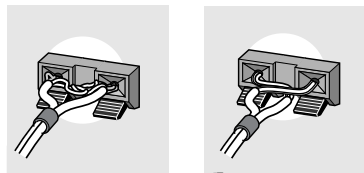


スピーカーのショートを防止する

スピーカーをショートさせるとスピーカーを損傷したり、トラブルが発生することがあります。

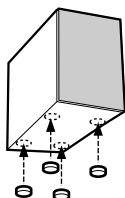
他のコードの先端と接触しないように気を付けてください。

スピーカーコード接続の悪い例

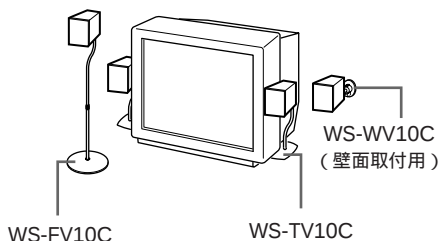


スピーカーを安定させる

聞いているときにスピーカーが振動したり移動したりしないように、付属のスピーカーパッドを、サテライトスピーカーの底面の四隅に貼ってください。ただし、スピーカースタンド(別売り)を使う場合は必要ありません。



スピーカースタンド(別売り)を使う
別売りのスピーカースタンド(WS-FV10C、WS-TV10C、WS-WV10C)を使うと、簡単に希望の場所にスピーカーを設置できます。



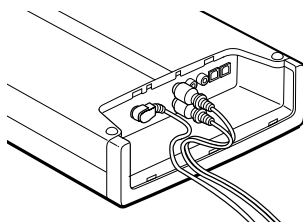
準備7：端子カバーとスタンドを取り付ける

コントロールセンターの側面や後面にスタンドを取り付けて縦置きにしたり、壁かけにしたりできます。また、コントロールセンターの置きかたによって、表示窓の表示方向を変えることができます(16ページ)。

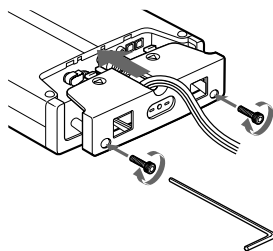
端子カバーを取り付ける

端子カバーはコントロールセンターの置きかたにかかわらず、必ず取り付けてください。

1 接続コードをまとめる。



2 接続コードを挟み込まないようにして端子カバーを取り付け、六角レンチを使ってネジで固定する。



次のページへ続く

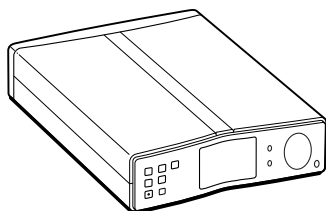
準備7：端子カバーとスタンドを取り付ける(つづき)

ご注意

- 端子カバーを取り付けるときは、接続コードを挟み込まないように気をつけてください。
- 市販の接続コードをお使いの場合は、コードの太さや硬さ、プラグの大きさが、付属のコードと同等のものをお使いください。コードが太すぎたり、硬すぎたり、またプラグが大きすぎたりすると、端子カバーがきちんと閉まらない恐れがあります。
- 表示窓を下に向けているときに力を加えないでください。コントロールセンターに傷がついたり破損する恐れがあります。

横置きにする

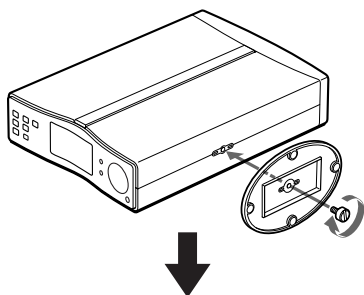
平らなところに置いてください。



スタンドを取り付けて縦置きにする

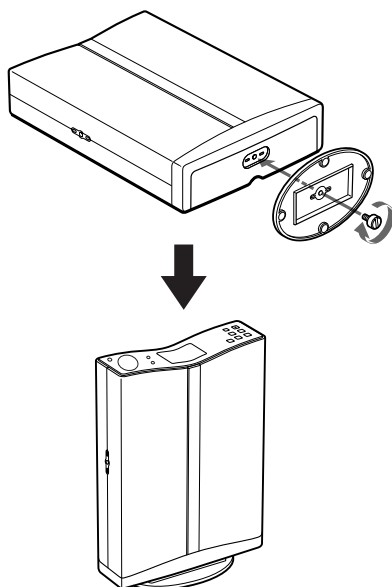
側面にスタンドを取り付ける

コントロールセンター側面の穴とスタンドの穴を合わせ、付属のネジでとめる。



後面にスタンドを取り付ける

端子カバーとスタンドの穴をあわせ、付属のネジでとめる。

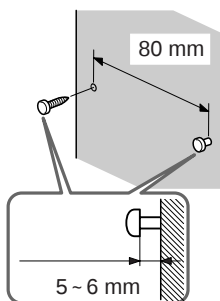


ご注意

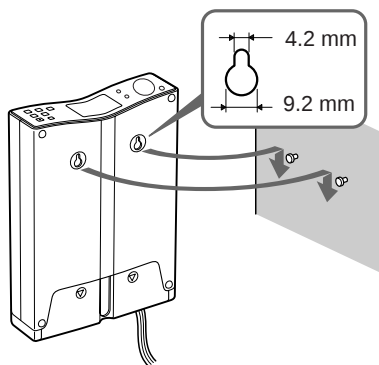
- コントロールセンターを縦置きにして使うときのみスタンドを取り付けてください。横置きにするときは、スタンドを取り外してください。
- コントロールセンターを縦置きで使うときは、必ずスタンドを取り付けてください。スタンドを取り付けないと、コントロールセンターが転倒することがあります。
- コントロールセンターを移動するときは、コントロールセンター本体を持ってください。スタンドを持つと、コントロールセンターが落下するなどで、破損することがあります。

壁にかける

市販のネジを、壁の同じ高さに80mm離して取り付けます。ネジが壁から5～6mm出ているようにします。



コントロールセンター底面の壁かけ用のくぼみに貼ってあるシールをはがして、コントロールセンターをネジにかけ、壁にぴったり押し付けます。

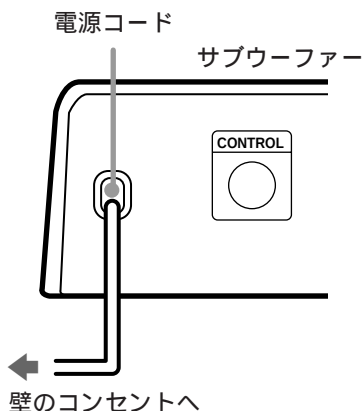


ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。
- 垂直で平らな壁の補強材の入っている部分に取り付けてください。強度の弱い壁や、垂直・平らでない壁には取り付けしないでください。
- 壁の材質やネジについては、ネジの販売店や工事店にご相談ください。
- 壁に取り付けて長時間使用したときは、壁の材質によっては、コントロールセンターの放熱により、背面や上面にあたる壁面が変色したり、壁紙がはがれたりすることがあります。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などにより事故・損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。
- 接続コードを抜き差しするときは、コントロールセンターを壁から取り外してください。

準備8：電源コードを接続する

すべての機器を接続した後、サブウーファースの電源コードを壁のコンセントに接続します。

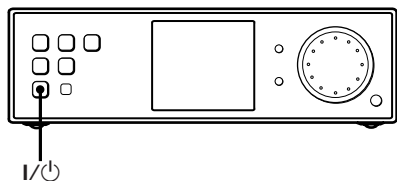


設定/接続を確認する

本機を初期設定状態にする

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。

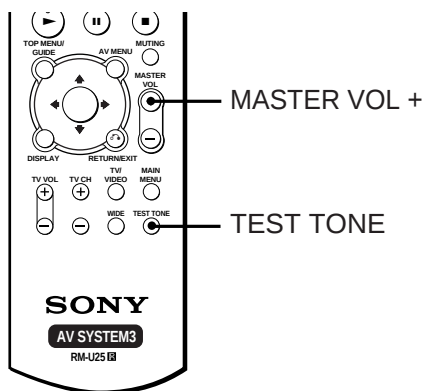
また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



- 1 I/O (電源スイッチ) を押して、本機の電源を切る。
- 2 「INITIAL」が表示されるまでI/O (電源スイッチ) を押し続ける。
現在のファンクション名が表示されます。下記がお買い上げ時の状態に戻ります。
 - SET UP、LEVELの各メニューで設定した内容
 - ファンクションごとに記憶したサウンドフィールド

すべてのスピーカーから音が出ているか確認する

以下の手順ですべてのスピーカーからテストトーンが出ているか確認してください。



- 1 MASTER VOL + ボタンを押す (ボリューム値のめやす: 20 ~ 30程度)。
- 2 TEST TONE ボタンを押す。
各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。
フロント(左) → センター → フロント(右) → サラウンド(右) → サラウンド(左) → サブウーファー
テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、本機の表示窓に表示されているスピーカー名と異なるスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーがショートしているか、誤配線の恐れがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。
- 3 TEST TONE ボタンをもう一度押して、テストトーンを消す。

DVDプレーヤー(別売り)でDVDを再生する

DVDプレーヤーや“プレイステーション2”を接続したときは、DVDをお楽しみいただけます。

- 1 DVDボタンを押す。
- 2 テレビの入力を選ぶ。
詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 3 DVDプレーヤーまたは“プレイステーション2”にDVDを入れる。
- 4 DVDを再生する。

機器を選ぶ

1 ファンクションボタンを押す。

見たい、聞きたい機器	押すボタン
DVDプレーヤーまたは“プレイステーション2”	DVD
衛星放送チューナー*	SAT
その他のオーディオ/ビデオ機器 (CDプレーヤー、MDプレーヤーなど)	AUX
ビデオデッキ	VIDEO
テレビ	TV

* BSデジタルチューナーはSAT端子につないでいても、必ずリモコンのファンクションボタンの設定を変更し、9に割り当ててください(24ページ)。設定を変更しないと、本機のリモコンでBSデジタルチューナーを操作できません。

2 機器の電源を入れて、再生する。

ビデオデッキやDVDプレーヤーなどのテレビに接続する機器を選んだときは、テレビの電源を入れて、入力を切り換えてください。

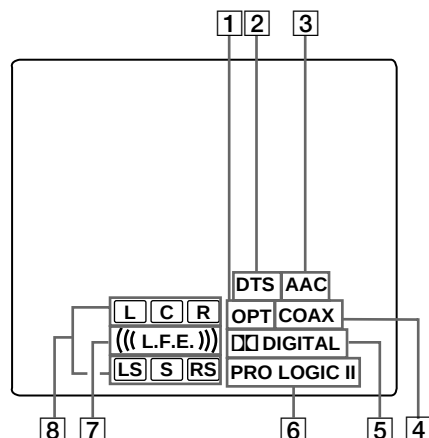
3 MASTER VOL +/-ボタンを押して、音量を調節する。

音を一時的に消したいときはMUTINGボタンを押す。

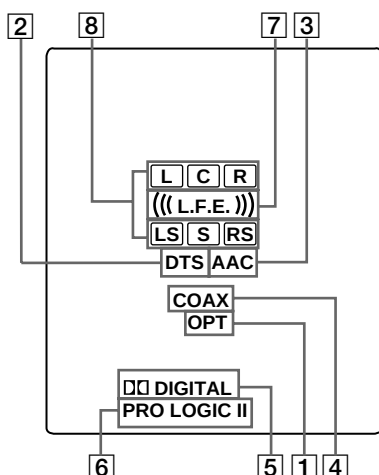
表示窓に点灯する項目について

コントロールセンターの置きかたによって、表示窓の表示方向を変えることができます(11ページ)。

A 横置きするとき



B 縦置きするとき



- ① OPT : DVDまたはSATファンクションを選んでいるときに点灯します。
- ② DTS : DTS信号が入力されているときに点灯します。
- ③ AAC : MPEG-2 AAC信号が入力されているときに点灯します。
- ④ COAX : AUXファンクションを選んでいるときに点灯します。
- ⑤ DIGITAL : ドルビーデジタル記録された信号をデコードしているときに点灯します。
- ⑥ PRO LOGIC (II) : 2チャンネル信号をプロロジック(II)処理しているときに点灯します。

- ⑦ ((L.F.E.)) : 再生中のディスクにLFE(低音増強)のチャンネルが存在しているとき、または実際にLFE信号の音が再生されているときに点灯します。

- ⑧ 再生チャンネル表示 : 現在出力しているチャンネルを表示します。

L : フロント左、R : フロント右、C : センター(モノラル) LS : サラウンド左、RS : サラウンド右、S : サラウンド(モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分)

文字の回りの枠が点灯し、再生に使われているスピーカーを表示します。

例 :

記録形式(フロント/サラウンド) : 3/2
サウンドフィールド : AUTO DECODING

L C R

LS RS

表示窓の表示を切り換える (垂直/水平/表示なし)

コントロールセンターの置きかたによって、表示窓の表示方向を以下のように変えることができます(11ページ)。

コントロールセンター 表示 の置きかた	
横置き	水平(16ページ、 POSN.H)
縦置き(側面に スタンド取り付け)	垂直(16ページ、 POSN.V)
縦置き(後面に スタンド取り付け) 壁かけ	表示なし (POSN.U)

次の手順で水平または垂直表示を切り換えます。

- 1 MAIN MENUボタンを繰り返し押して、SET UPメニューを選ぶ。
- 2 /// ボタンを上下に動かして、表示窓の設定を表示させる。
- 3 /// ボタンを左右に動かして、希望する設定を選ぶ。
水平表示にするには「POSN.H」を、
垂直表示にするには「POSN.V」を、
表示なしにするには「POSN.U」を選びます。

サウンドフィールドを選ぶ

本機にプログラムされているサウンドフィールド(音場効果)を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。

- ➔ **SOUND FIELD +/- ボタン**を繰り返し押し、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。
表示窓に、選んだサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールド	表示
AUTO DECODING	AUTO DEC
NORMAL SURROUND	NORM.SUR
CINEMA STUDIO EX A DCS	C.S.EX A
CINEMA STUDIO EX B DCS	C.S.EX B
CINEMA STUDIO EX C DCS	C.S.EX C
LARGE HALL	L.HALL
SMALL HALL	S.HALL
JAZZ CLUB	JAZZ
LIVE CONCERT	CONCERT
GAME	GAME

DCS(デジタルシネマサウンド)について

DCSマークの付いたサウンドフィールドは、DCS技術を利用しています。

ソニーは、ソニー・ピクチャーズエンターテインメントとの協力によりダビングスタジオの音場を測定し、そのデータとソニー独自のDSP(Digital Signal Processor: デジタル信号処理)技術との組み合わせによりデジタルシネマサウンドを開発しました。デジタルシネマサウンドは、映画製作者が意図した理想的なシアター音場効果をホームシアターで再現します。

CINEMA STUDIO(シネマスタジオ)EXモードで映画を楽しむ

シネマスタジオEXは、映画のDVDソフトなどを再生して、マルチチャンネルのサラウンド効果を楽しむのに適したサウンドフィールドです。ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのダビングスタジオの音響特性を、ご自分の部屋で再現できます。

3つのシネマスタジオEXモードがあります。

■ CINEMA STUDIO EX A **DCS**

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。

■ CINEMA STUDIO EX B **DCS**

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

■ CINEMA STUDIO EX C **DCS**

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

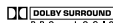
シネマスタジオEXモードについて
シネマスタジオEXの各モードは、次の3つの
要素から成り立っています。

- ・「Virtual Multi Dimension」
(バーチャルマルチディメンジョン)
1組の実在するサラウンドスピーカーから、5組の仮想サラウンドスピーカーを生成します。
- ・「Screen Depth Matching」
(スクリーンデプスマッチング)
映画館のように、音がスクリーンの中から出てくるような感覚を作り出します。
- ・「Cinema Studio Reverberation」
(シネマスタジオリバーブレーション)
映画館独特の残響を再現します。

シネマスタジオEXは、これら3要素を同時に動作させる統合モードです。

ちょっと一言

DVDソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。

-  : ドルビーデジタルでエンコードされているソフト
-  : ドルビーサラウンドでエンコードされているソフト
-  : DTSデジタルサラウンドでエンコードされているソフト

ご注意

- ・仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、エフェクトの効果によりノイズが目立つことがあります。
- ・仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、サラウンドスピーカーからどんな音も直接は聞こえません。
- ・MPEG-2 AAC信号が入力されているときは、サウンドフィールドの設定は無効になります。

その他のサウンドフィールドを選ぶ

- ➡ SOUND FIELD +/- ボタンを
繰り返し押して、お好みのサ
ウンドフィールドを選ぶ。
表示窓に、選んだサウンドフィールド
が表示されます。

■ AUTO DECODING

入力された音声信号(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC 2チャンネルステレオ音声など)を自動的に判別し、適切な処理をします。録音またはエンコードされたままの音を、サラウンド効果を加えずに再現します。

■ NORMAL SURROUND

マルチチャンネルのサラウンド音声信号のソフトが録音された通りに再生されます。

小規模な長方形のコンサートホールの音響を再現します。

2チャンネルの音声信号のソフトでは、サラウンド効果を再現するために、2チャンネルデコーディングモードの設定によって様々なデコーディングモードを選べます。

■ LARGE HALL

大規模な長方形のコンサートホールの音響を再現します。

■ SMALL HALL

小規模な長方形のコンサートホールの音響を再現します。

■ JAZZ CLUB

ジャズクラブの音響を再現します。

■ LIVE CONCERT

300席あるライブハウスの音響を再現します。

■ GAME

ビデオゲームのソフトで、迫力のある音声が得られます。

ドルビープロロジック(II)を楽しむ

2チャンネル音声入力をマルチチャンネルで聞くためのデコーディングモードを選ぶ機能です。2チャンネルの音声を、ドルビープロロジックでは4チャンネル、ドルビープロロジックIIでは5.1チャンネルで再生できます。

➡ □□PL/PLIIボタンを繰り返し押して、2チャンネルデコーディングモードを選ぶ。

表示窓に、選んだモードが表示されます。2チャンネルデコーディングモードを選ぶと、サウンドフィールドは自動的に「NORM.SUR」(19ページ)になります。

ドルビープロロジック/ ドルビープロロジックIIモード	表示
--------------------------------	----

DOLBY PRO LOGIC ドルビーエンコードされた 2チャンネルを4チャンネルに デコードして再生します。 ドルビーエンコードされた ビデオテープなどの再生に 適しています。	DOLBY PL
--	----------

DOLBY PRO LOGIC II MOVIE ドルビーエンコードされた 2チャンネルはもとよりあらゆる ステレオ音源を5.1チャンネルに 拡張再生します。 映画音声の再生に適しています。	MOVIE
--	-------

DOLBY PRO LOGIC II MUSIC CDなどの通常のステレオ音源を 5.1チャンネルに拡張再生します。 音楽の再生に適しています。	MUSIC
---	-------

ご注意

ドルビープロロジックIIIはDTS、MPEG2 AACのときは働きません。

バイリンガル(二重音声)の再生モードを選ぶ (AAC BILINGUAL)

初期設定：AAC MAIN

BSデジタル放送のMPEG-2 AAC二重音声を聞くときの、再生モードを選ぶことができます。

➡ リモコンのAAC BI-LINGボタンを押す。

押すたびに、再生モードは次のように切り換わります。初期設定はMAINです。

再生モード	再生する音声
MAIN	主音声のみ
SUB	副音声のみ
M/S	左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生
M + S	主音声と副音声が合成された音声を再生

ご注意

BSデジタルチューナー側の設定で、デジタル出力を「AAC」または「オート」に切り換えてください。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経つと、本機の電源を自動的にオフにすることができます。

➡ ALTボタンを押した後、SLEEPボタンを押す。

SLEEPボタンを押すごとに、時間表示が次のように切り換わります。

2-00-00 → 1-30-00 → 1-00-00 → 0-30-00 → OFF

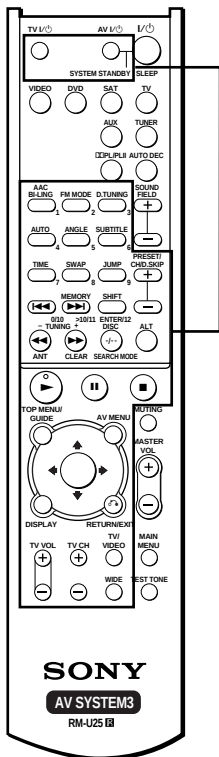
スリープタイマーが働いているときは、表示窓が暗くなります。

ちょっと一言

本機の電源がオフするまでの残り時間を確認するには、ALTボタンを押した後、SLEEPボタンを押します。表示窓に残り時間が表示されます。

本機のリモコンで他の機器を操作する

本機のリモコンを使って、他のソニー製機器を操作することができます。



他の機器を操作するボタン

リモコンのボタン	操作できる機器	機能
AV I/⏻	テレビ/ ビデオデッキ/ CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ LDプレーヤー/ DVDプレーヤー/ MDデッキ/ DATデッキ	オーディオ/ビデオ 機器の電源をオン/ オフする
SYSTEM STANDBY (I/⏻を 押しながら AV I/⏻を 押す)	コントロール センター/ 衛星放送 チューナー/ テレビ/ ビデオデッキ/ CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ LDプレーヤー/ DVDプレーヤー/ MDデッキ/ DATデッキ/ カセットデッキ	本機とソニー製 オーディオ/ビデオ 機器の電源を切る
1-9、0/10 (ALTボタンを 押してから)	チューナー	MEMORYモードの 時、D.TUNING、 SHIFTボタンとともに 使って数字を入力する
	CDプレーヤー/ ビデオCD/ プレーヤー/ LDプレーヤー/ MDデッキ/ DATデッキ	トラック番号を選ぶ 0を押すと10が入力さ れます
	テレビ/ ビデオデッキ/ 衛星放送 チューナー	チャンネル番号を選ぶ
SHIFT	チューナー	放送局を登録するときや、 登録した放送局を選ぶと きに、繰り返し押して メモリーページを選ぶ
D.TUNING	チューナー	放送局を手動受信モードにする

その他の操作/設定

次のページへ続く

各部の名前と働き(つづき)

リモコン のボタン	操作できる 機器	機能
TUNING +/-	チューナー	放送局を受信する
MEMORY	チューナー	放送局を登録する
FM MODE	チューナー	FMモード(モノラル/ ステレオ)を選ぶ
>10/11 (ALTボタンを 押してから)	CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ LDプレーヤー/ MDデッキ/ カセットデッキ	10以上のトラック 番号を選ぶ
	テレビ	11チャンネルを選ぶ
AUDIO	テレビ/ ビデオデッキ/ DVDプレーヤー	音声を選ぶ(マルチ、 バイリンガル)
TIME	CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ DVDプレーヤー	時間情報を見る
PRESET/ CH/	チューナー	登録した放送局を探す/選ぶ
D.SKIP +/-	テレビ/ ビデオデッキ/ 衛星放送チューナー	プリセットチャンネルを選ぶ
	CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ DVDプレーヤー/ MDデッキ	ディスクをスキップす る(チェンジャーのみ)
ENTER/12 (ALTボタンを 押してから)	テレビ/ ビデオデッキ/ 衛星放送 チューナー/ LDプレーヤー/ MDデッキ/ DATデッキ/ カセットデッキ	数字ボタンでチャンネ ル、ディスク、トラッ クを選んだあと、押し て確定する
	テレビ	12チャンネルを選ぶ
DISC	CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー	ディスクを直接選ぶ (チェンジャーのみ)

リモコン のボタン	操作できる 機器	機能
DISPLAY	テレビ/ ビデオデッキ/ ビデオCD プレーヤー/ LDプレーヤー/ DVDプレーヤー	テレビ画面に出る表示 を選ぶ
ANT	ビデオデッキ	ビデオのアンテナ端子 からの出力信号を選ぶ (テレビまたはビデオ 信号)
◀◀/▶▶	ビデオデッキ/ CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ LDプレーヤー/ DVDプレーヤー/ MDデッキ/ DATデッキ/ カセットデッキ	トラックを戻す/ 進める
◀◀/▶▶	CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ DVDプレーヤー/ LDプレーヤー/ MDデッキ	トラックを(順または 逆方向に)サーチする
	ビデオデッキ/ DATデッキ/ カセットデッキ	早送りまたは巻き戻し する
▷	ビデオデッキ/ CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ LDプレーヤー/ DVDプレーヤー/ MDデッキ/ DATデッキ/ カセットデッキ	再生する
⏮	ビデオデッキ/ CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ LDプレーヤー/ DVDプレーヤー/ MDデッキ/ DATデッキ/ カセットデッキ	再生または録音を一時 停止する(録音一時停 止中に押すと録音を 始める)

リモコン のボタン	操作できる 機器	機能
■	ビデオデッキ/ CDプレーヤー/ ビデオCD プレーヤー/ LDプレーヤー/ DVDプレーヤー/ MDデッキ/ DATデッキ/ カセットデッキ	停止する
AV MENU	ビデオデッキ/ 衛星放送 チューナー/ DVDプレーヤー	メニューを表示する
▲/▼/◀/▶	ビデオデッキ/ 衛星放送 チューナー/ DVDプレーヤー	メニュー項目を選び、 真ん中を押し込んで確 定する
RETURN/↶/ EXIT	ビデオCD プレーヤー/ LDプレーヤー/ DVDプレーヤー 衛星放送 チューナー	前のメニューに戻る メニュー設定をやめる
SUBTITLE	DVDプレーヤー	字幕を選ぶ
ANGLE	DVDプレーヤー	アングルを選ぶ
CLEAR	DVDプレーヤー	数字ボタンを使って入 力した数字をクリアす る、または、ふつうの 再生に戻す
SEARCH MODE	DVDプレーヤー	サーチモードを選ぶ サーチする単位(トラ ック、インデックスな ど)を選ぶ
TOP MENU/ GUIDE	DVDプレーヤー 衛星放送 チューナー	DVDのタイトルを表 示する ガイド画面を表示する
TV I/Ⓜ	テレビ	テレビの電源をオン/ オフする
-/--	テレビ	チャンネル入力モード を選ぶ(1文字または2 文字)

リモコン のボタン	操作できる 機器	機能
TV VOL +/-	テレビ	テレビの音量を調節す る
TV CH +/-	テレビ	テレビのチャンネルを 選ぶ
TV/VIDEO	テレビ	入力信号を選ぶ(テレ ビまたはビデオ入力)
SWAP*	テレビ	大画面と小画面を入れ 替える
JUMP	テレビ	前のチャンネルと今の チャンネルを切り換え る
ALT	リモコン	オレンジ色で書かれた ボタンの機能を使うと きに押す

* ピクチャーインピクチャー機能がついたソニー製
テレビのみ

ご注意

- 機能の説明は、例としてあげています。機器によつては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。
- オレンジ色で書かれたボタンの機能を使うときは、先にALTボタンを押してください。
- コントロールセンターの操作をするために▲/▼/◀/▶ボタンを使うときは、先にMAIN MENUボタンを押してください。他の機器の操作をするために使うときは、先にファンクションボタンを押し、AV MENUまたはTOP MENU/GUIDEボタンを押してください。

リモコンのファンクションボタンの設定を変える

実際にお使いの機器に合わせて、本機リモコンのファンクションボタンの設定を変えることができます。例えば、MDデッキを持っていて、DVDプレーヤーを持っていない場合には、DVDボタンにMDデッキを割り当てることができます。

1 設定を変えたいリモコンのファンクションボタン(VIDEO/DVD/SAT/TV/AUX/TUNER)を押し続ける。
例：DVDボタンを押し続ける。

2 リモコンのファンクションボタンに割り当てたい機器のボタンを押す。
例：MDデッキを操作できるようにしたいので、◀◀ボタンを押す。
機器を選ぶボタンは以下のように設定されています。

操作する機器	押すボタン
ビデオデッキ(VTRモード1*)	1
ビデオデッキ(VTRモード2*)	2
ビデオデッキ(VTRモード3*)	3
DVDプレーヤー	4
テレビ	5
BSチューナー	7
デジタルCSチューナー	8
BSデジタルチューナー**	9
チューナー	0/10
CDプレーヤー	12
MDデッキ	◀◀
LDプレーヤー	▶▶

* ソニー製ビデオデッキはVTR1、2または3の設定で使用できます。これらはそれぞれベータ、8ミリ、VHSに対応します。

**BSデジタルチューナーは、SAT端子につないでも、必ず9に割り当ててください。

すべてのボタンの設定をお買い上げ時の状態に戻すには
I/⏻、AV I/⏻、MASTER VOL-ボタンを同時に押す。

スピーカー設定をする

SET UPメニューを使って、スピーカーの設定をします。

1 MAIN MENUボタンを繰り返し押し、SET UPメニューを選ぶ。

2 ⬆/⬇/⬅/➡ボタンを上下に動かして、調節したいパラメーターを選ぶ。

3 ⬆/⬇/⬅/➡ボタンを左右に動かして、希望する設定を選ぶ。

4 操作2と3を繰り返して、設定項目をすべて設定する。

スピーカーの設定項目

お買い上げ時は、下線のパラメーターに設定されています。

■ フロントスピーカーまでの距離

(㊦ ㊦ DIS.)

お買い上げ時の設定：3.5 m

リスニングポジションから左右のフロントスピーカーまでの距離(9ページ㊦)を設定します。1.0～10.0 mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。

左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■ センタースピーカーまでの距離

(㊦ DIS.)

お買い上げ時の設定：3.5 m

リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。フロントスピーカーと同じ距離(9ページ㊦)からリスニングポジションに1.5 m近づける範囲が(9ページ㊧)より良好なサラウンド効果を得られる距離です。

■ サラウンドスピーカーまでの距離

(㊦ ㊦ DIS.)

お買い上げ時の設定：2.0 m

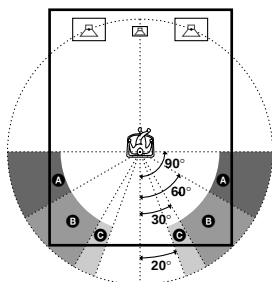
リスニングポジションから左右のサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。フロントスピーカーと同じ距離(9ページ㊦)からリスニングポジションに4.5 m近づける範囲が(9ページ㊣)より良好なサラウンド効果を得られる距離です。

左右のサラウンドスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■ サラウンドスピーカーの位置

(㊦ ㊦ PL.)

デジタルシネマサウンド(18ページ)によるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの位置をより細かく設定します。



• SIDE

サラウンドスピーカーの位置が㊦の範囲にあるときに選びます。

• MIDDLE (MID)

サラウンドスピーカーの位置が㊧の範囲にあるときに選びます。

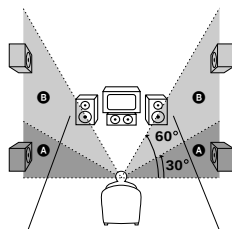
• BEHIND (BEHD.)

サラウンドスピーカーの位置が㊣の範囲にあるときに選びます。

■ サラウンドスピーカーの高さ

(㊦ ㊦ HGT.)

デジタルシネマサウンド(18ページ)によるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの高さをより細かく設定します。



• LOW

サラウンドスピーカーの高さが㊦の範囲にあるときに選びます。

• HIGH

サラウンドスピーカーの高さが㊧の範囲にあるときに選びます。

サウンドフィールドの効果を調節する

サラウンドパラメーターやレベルパラメーターを使って、お好みに応じてサウンドフィールドの効果を調節できます。

サウンドフィールドの効果を調節する前にスピーカーの位置を決め、「スピーカーを設置する」(9ページ)と「すべてのスピーカーから音が出ているか確認する」(14ページ)の手順を行ってください。

サラウンドパラメーター (EFFECT) を調節する

現在のサラウンド効果の臨場感を調節します。AUTO DECODINGとNORMAL SURROUND以外のサウンドフィールドに対して有効です。

お買い上げ時の設定：(サウンドフィールドによる)

- 1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源(DVDなど)を再生する。
- 2 MAIN MENUボタンを繰り返し押し、EFFECTを選ぶ。
- 3 $\blacktriangle/\blacktriangledown/\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを左右に動かして、希望する設定を選ぶ。

スピーカーのレベルやバランスを調節する

各スピーカーのバランスやレベルを調節できます。リスニングポジションに座り、テストトーンが同じ大きさに聞こえるように調節します。調節した内容は、すべてのサウンドフィールドに反映されます。

- 1 MASTER VOL +ボタンを押す(ボリューム値のめやす：20~30程度)。
- 2 TEST TONEボタンを押す。
各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。
フロント(左)→センター→フロント(右)→サラウンド(右)→サラウンド(左)→サブウーファー
- 3 MAIN MENUボタンを繰り返し押し、LEVELメニューを選ぶ。
- 4 $\blacktriangle/\blacktriangledown/\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを上下に動かして、調節したいパラメーターを選ぶ。
- 5 $\blacktriangle/\blacktriangledown/\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを左右に動かして、希望する設定を選ぶ。

ちょっと一言

- さらに細かい調節をするには、マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源(DVDなど)を再生し、音を聞きながらレベルやバランスを調節します。
- 本機は中心周波数800 Hzのテストトーンを採用しています。
- 全体の音量調節をするには、コントロールセンターのMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのMASTER VOL +/-ボタンで調節します。

ご注意

- 調節しているあいだ、フロントバランス、サラウンドバランス、センターレベル、サラウンドレベル、サブウーファーレベルは表示窓に表示されます。
- よりよい音質でお楽しみいただくために、サブウーファーの音量は上げすぎないでください。

LEVELメニューの設定項目

■ フロントスピーカーバランス

(㊦ ㊦ BAL.)

お買い上げ時の設定 : (BALANCE)

フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。L (+1 ~ +8) R (+1 ~ +8) の範囲内で1段階ごとに調節できます。

■ サラウンドスピーカーバランス

(㊦ ㊦ BAL.)

お買い上げ時の設定 : (BALANCE)

サラウンドスピーカーの左右のバランスを調節します。L (+1 ~ +8) R (+1 ~ +8) の範囲内で1段階ごとに調節できます。

■ センタースピーカーレベル (CTR)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 10 dB ~ + 10 dB の範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ サラウンドスピーカーレベル (SURR)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 10 dB ~ + 10 dB の範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ サブウーファーレベル (S.W.)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

- 10 dB ~ + 10 dB の範囲で、1 dB単位で調節できます。

■ LFEミックスレベル (㊦ LFE)

お買い上げ時の設定 : 0 dB

サブウーファーからのLFE (低音増強) チャンネルの出力レベルを弱くします。ただし、フロント、センター、サラウンドチャンネルからドルビーデジタルまたはDTS低音変換機能を通してサブウーファーに送られる低音のレベルは変わりません。

- 20 dB ~ 0 dB (ラインレベル) の範囲で、1 dB単位で調節できます。「0 dB」では、レコーディングエンジニアによって定められたミックスレベルでLFE信号が出力されます。「OFF」を選ぶと、サブウーファーからのLFEチャンネル音声はミュートされます。このとき、フロント、センター、サラウンドスピーカーの低音は、サブウーファーから出力されます。

■ ダイナミックレンジの圧縮 (DRC.)

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。

• OFF

ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

• STD

レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

• MAX

ダイナミックレンジを極端に狭くします。

ちょっと一言

ダイナミックレンジの圧縮では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。「STD」が本来の圧縮値ですが、控えめな場合があります。その場合、「MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

ご注意

ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキから近い所。

(テレビやビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)

- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、サブウーファーおよびスピーカースタンド(別売り)などを置くときは、変色、染みなどが残ることがあります。

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。

特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。

また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しの良い所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞かせください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。窓を開めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

症状	原因と対応のしかた
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声再生されない	→ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。 → DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力(デジタル音声出力の)設定を確認する(7ページ)。 → DVDプレーヤー側で、音声を正しく選んでいるか確認する(DVDメニューの音声設定を確認する)。
音が出ない、ほとんど聞こえない	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 正しい機器が選ばれているか確認する。 → MUTEボタンをおして、ミュート機能を解除する。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → LEVELメニューにあるバランスパラメーターを調節する。
ハム音またはノイズがひどい	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。 → テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 → プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
センタースピーカーの音が出ない	→ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力(デジタル音声出力)の設定を確認する(7ページ)。 → サウンドフィールドがオンになっているか確認する(SOUND FIELD +/- ボタンを押す)。 → シネマスタジオEXモードを選ぶ。 → スピーカーの音量を調節する(26ページ)。
サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	→ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力(デジタル音声出力)の設定を確認する(7ページ)。 → サウンドフィールドがオンになっているか確認する(SOUND FIELD +/- ボタンを押す)。 → シネマスタジオEXモードを選ぶ。 → スピーカーの音量を調節する(26ページ)。
サラウンド効果が得られない	→ サウンドフィールドがオンになっているか確認する(SOUND FIELD +/- ボタンを押す)。
リモコンで操作できない	→ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 → リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 → リモコンの乾電池を交換する。 → リモコンのファンクションを確認する。 → BSデジタルチューナーはSAT端子につないでいても、必ずリモコンのファンクションボタンの設定で9に割り当て(24ページ)。

故障かな？と思ったら（つづき）

表示窓に下記が表示されるときは

「UNLOCK」

- DVD、AUX、またはSATファンクションを選んでも、デジタル入力端子に機器が接続されていない。
- 機器が正しく接続されていても、接続した機器の電源が入っていないかったり、再生が始まっていない。

「PROTECT」

- スピーカーコードがショートしている（11ページ）
 - 電源を切ってから、正しく接続し直す。
- 大音量での長時間使用などにより、本機の温度が上がっている。
 - 電源を切って、しばらく置く。
 - 音量を下げて使う。

本機のメモリーをクリアするための参照ページ

消去するメモリー	参照ページ
全てのメモリー	14ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：HT-K25
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ/サブウーファー部

実用最大出力

ステレオモード：50W + 50 W (6Ω、JEITA)

サラウンドモード：

フロント部*：50 W/チャンネル

センター部*：50 W

サラウンド部*：50 W/チャンネル

(6Ω、JEITA)

サブウーファー部：90 W (3Ω、JEITA)

* サウンドフィールドによっては音が出ません

周波数特性 20 Hz ~ 20kHz

入力(デジタル)

AUX(同軸) インピーダンス：75 オーム

S/N比：90 dB

(A、20 kHz LPF)

DVD、SAT(光) S/N比：90 dB

(A、20 kHz LPF)

入力(アナログ)

TV、VIDEO 入力感度：700 mV

インピーダンス：50 キロオーム

S/N比：84 dB

(A、20 kHz LPF)

形式 アドバンスドS.A.W.、防磁型

使用スピーカー 16 cm、コーン型

周波数帯域 30 Hz ~ 200 Hz

カットオフ周波数

150 Hz

電源、その他

電源 AC 100 V、50/60 Hz

消費電力 40W

スタンバイ時：0.6 W

最大外形寸法(幅/高さ/奥行き)

コントロールセンター：

196 × 60 × 269 mm

サブウーファー：

224 × 318.5 × 344 mm

質量

コントロールセンター：約1.1 kg

サブウーファー：約7.1 kg

サテライトスピーカー部

SS-K25(センターおよびサラウンドスピーカー)

形式 フルレンジ、バスレフ型、防磁型

使用スピーカー 5.7 cm、コーン型

定型インピーダンス

6 Ω

出力音圧レベル 85 dB (1 W、1 m)

実効周波数帯域 150 Hz ~ 20,000 Hz

最大外形寸法 約77 × 115 × 89 mm

質量

約0.5 kg

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

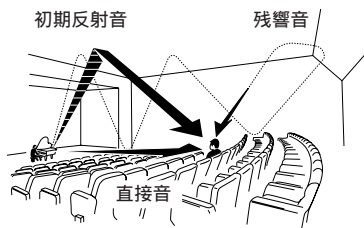
その他

用語解説

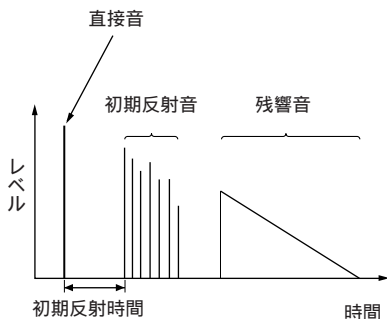
サラウンドサウンド

直接音、初期反射音および残響音の3要素で構成されているサラウンドです。音を聞いている場所の音響効果は、この3つの音の要素の聞こえかたによります。これらの音の要素で、コンサートホールの広さや環境を実際に感じることができます。

・音の種類



・リアスピーカーからのサウンドの遷移



デジタルシネマサウンド

映画館での迫力あるサウンドを家庭で楽しんでいただくために、ソニーがデジタル信号処理技術を駆使して開発したサラウンドサウンドの総称です。音楽演奏用の空間をベースにした従来の音場再現と違い、あくまで映画を楽しむために開発されました。

ドルビーデジタル

ドルビープロロジックをさらに発展させ劇場用に開発された映画の音のフォーマットです。リア出力をステレオ化した上で周波数帯域を拡大、さらに低域を受け持つサブウーファー出力も独立して設けてあります(サブウーファーの出力は重低音効果が必要なときだけ動作するので0.1 chと数えられるため、「5.1 ch」と呼ばれます)。あらかじめ5.1チャンネルが分離された状態で記録されており、チャンネル間のセパレーションも良好です。さらにすべての音がデジタル信号で処理されるので、劣化しにくいという特長を持っています。

ドルビープロロジック(II)サラウンド
2チャンネルに記録されている音源をマト
リックス方式によりマルチチャンネル化させ
る技術です。

- DOLBY PL (ドルビープロロジック)
フロント、センターの再生帯域は20～
20KHz。サラウンドチャンネルはモノラ
ルで再生帯域は100～7KHzの4チャン
ネル構成です。正しいサラウンド効果を得る
ためにはドルビーサラウンドエンコードさ
れた音源が前提です。
- PLII MOVIE (ドルビープロロジックII
ムービー)
あらゆるステレオ音源を5.1チャンネルに
拡張再生します。映画音声の再生に適した
定位感をもつように設定されており、サラ
ウンドチャンネルのステレオ化をふくめ、
全チャンネル20～20KHzの広帯域となっ
ています。
- PLII MUSIC (ドルビープロロジックII
ミュージック)
音楽再生に適した5.1チャンネル拡張再生
で、サラウンドチャンネルは定位感よりも
包囲感が得られるよう設定されてます。サ
ラウンドチャンネルのステレオ化をふく
め、全チャンネル20～20KHzの広帯域と
なっています。

AAC

MPEG-2 AAC (Advanced Audio
Coding) はMPEG (Moving Picture
Experts Group) が開発した、MPEG-2
オーディオ標準方式の中の一つで、マルチ
チャンネル音声再生を可能とするフォーマッ
トです。

高音質・高圧縮率を両立することができ、特
に低ビットレート(高圧縮率)の環境では、
ドルビーデジタルやMP3 (MPEG Layer-3)
など、従来のフォーマットに比べて高い音質
を維持することができます。
わずか96 kbpsという低ビットレートで、
CD並みといわれる高品質のステレオ音声を
伝送することができるこの音声符号化規格
は、2000年の年末に始まったBSデジタル放
送で採用されています。

各部の名前と参照ページ

このページの使いかた

本書で説明しているボタンなどの場所がわからない
ときに、このページで見つけることができます。

イラストの番号

A.DEC 28 (25)

ボタンなどの名前 参照ページ

コントロールセンター

五十音順

表示窓 6 (16)

リモコン受光部 11 19

アルファベット/数字順

AUX 5 (15)

AUXランプ 15

DVD 1 (15)

DVDランプ 13

MASTER VOLUME 8 (14、
15)

MUTING 9 (15)

MUTINGランプ 18

AMPLI 7 (20)

SAT 3 (15)

SATランプ 14

SOUND FIELD 10 (18、19)

TV 4 (15)

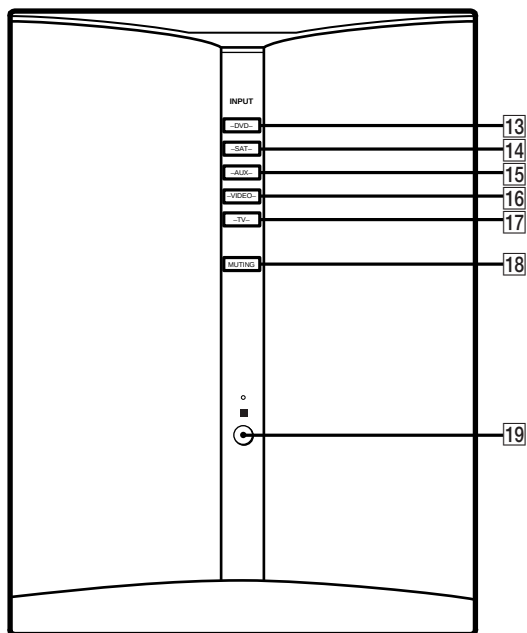
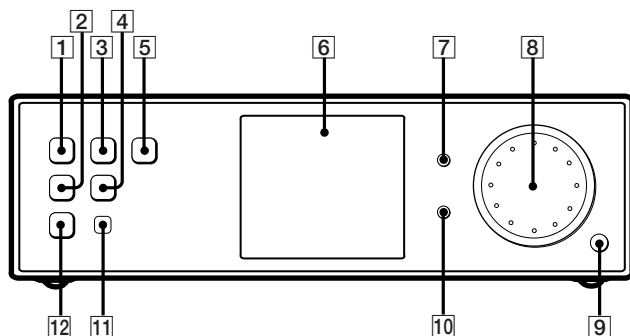
TVランプ 17

VIDEO 2 (15)

VIDEOランプ 16

記号

I/O (電源) 12



リモコン

五十音順

数字ボタン 20

アルファベット/数字順

A - C

AAC BI-LING 44
ALT 30 (20)
ANGLE 42
ANT 18
AUDIO 43
AUTO DEC 25
AUX 21 (15)
AV I/⏻ (電源) 2
AV MENU 32
CLEAR 8

D - S

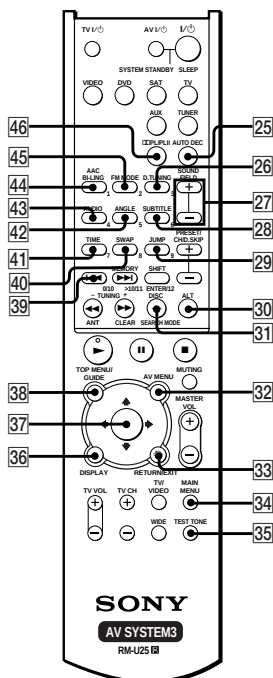
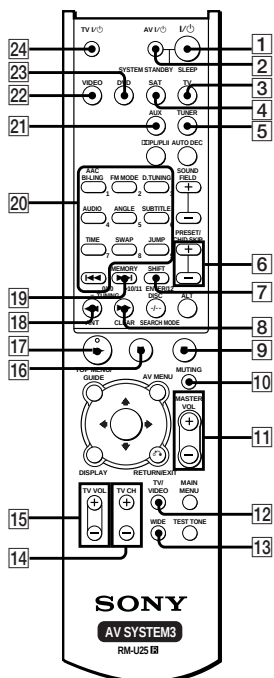
D.TUNING 26
DISC 31
DISPLAY 36
DVD 23 (15)
ENTER/12 7
FM MODE 45
JUMP 29
MAIN MENU 34 (24, 26)
MASTER VOL +/- 11 (14, 15)
MEMORY 19
MUTING 10 (15)
DOL/PLII 46 (20)
PRESET/CH/D.SKIP +/- 6
RETURN ⏮/EXIT 33
SAT 4 (15)
SEARCH MODE 31
SHIFT 7
SLEEP 1 (20)
SOUND FIELD +/- 27 (18, 19)
SUBTITLE 28
SWAP 40

T - W

TEST TONE 35 (14)
TIME 41
TOP MENU/GUIDE 38
TUNER 5
TUNING + 8
TUNING - 18
TV 3 (15)
TV CH +/- 14
TV VOL +/- 15
TV/VIDEO 12
TV I/⏻ (電源) 24
VIDEO 22 (15)
WIDE 13

記号

I/⏻ (電源) 1
⏮/⏭/⏮/⏭ 37
▶▶ 8
◀◀ 18
▶▶ 19
◀◀ 39
▶ 17
⏮ 16
■ 9
-/- 31
>10/11 19



その他

索引

五十音順

さ行

サウンドフィールド
サウンドフィールドを選ぶ
18、19
サウンドフィールドの効果
を調節する 26
プログラムされている
サウンドフィールド 18、
19
リセットする 14
スピーカー
音量の調節 14、26
接続 10
設置 9
スリープタイマー 20
選択する
機器 15
サウンドフィールド 18、
19

た行

調節する
スピーカーの音量 14、26
LEVELパラメーター 26
SET UPパラメーター 24
デジタルシネマサウンド 18
テストトーン 14

アルファベット/ 数字順

AAC 20
LEVELメニュー 26
SET UPメニュー 24

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様相談センターへ

● ナビダイヤル……………  0570-00-3311
(全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます)

● 携帯電話・PHSでのご利用は… 03-5448-3311

● Fax …………… 0466-31-2595

受付時間：

月～金
9:00～
20:00、
土・日・祝日
9:00～
17:00



この説明書は100%古紙再生紙とVOC
(揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキ
を使用しています。